

保育士を目指す学生のための連絡帳の書き方について

How to write notebook for messages for
students to be a childcare person

松 本 和 美

Kazumi MATSUMOTO

保育士を目指す学生のための連絡帳の書き方について

How to write notebook for messages for students to be a childcare person

松本 和美*

Kazumi MATSUMOTO

Key Word : 連絡帳 文章力向上 授業の工夫 保護者支援

I. はじめに

近年、学生達の文章表現能力の低下に伴い、実習日誌の指導など、文章表現能力の向上のために授業における徹底した指導が臨まれる。

さらには、新しく改訂された保育所保育指針において『保護者に対する支援』が掲げられ、家庭との緊密な連携の下に保育がおこなわれることが明記されている。就職後すぐに保護者との対応を迫られる中で、保育士にとって連絡帳への記述は重要な仕事の一つであり、かつ大きな心の負担となるのである。

保育士のための記録の書き方に関する書籍や研究は多い。しかしながら、保育学生に対しての資料は未開発である。

そこで今回、学生に対し『連絡帳を書く』というテーマで講義を行い、保護者との連携を図るツールとしての連絡帳の意義と役割を学ぶとともに、文章表現能力の強化に繋がる効果を図った。

II. 保育所保育指針改定による連絡帳の意義

平成21年度より実施の保育所保育指針第6章2保育所に入所している子どもの保護者に対する支援には「(2) 保護者に対し、保育所における子どもの様子や日々の保育の意図などを説明し、保護者との相互理解を図るよう努めること。」と記されている。

保護者と保育士を結ぶ役割を担うものとして、連絡帳は欠かせない。日頃じっくりと子どもと関われない保護者は連絡帳によって子どもの育ちを知り、また育児の悩みを相談できる貴重な存在なのである。連絡帳は保護者が自宅で落ち着いた時間に開いて、子どもの成長や自分の悩みに答えてくれる文章に、ホッとするものであり、保育士との信頼関係を築く役割をも果たしている。

しかしながら書き手の保育士にとっては、書く時間が十分に取れない。書いたものは記録として残るために、うまく思いを伝える文章が書けないと悩んでいる。だからといって、口答で伝えるにも、長時間保育による勤務の交代で

即座の対応がスムーズにできないことがある。保育士は連絡帳の意義を改めて理解した上で、うまく保育に活かしていくことが責務といえる。そこで、連絡帳における対応の具体的にどこが苦手意識の原因であるのか、保育士と学生の両者に調査を行った。

III. 保育士の悩み（連絡帳）

香川県丸亀市のK保育園において『連絡帳を書くこと』について園内研修会をおこなった。その話し合いの中で、保育経験の5年目までの保育士の中に、嘸みつきやひっかきの状況をうまく連絡帳に書けずに、保護者とのトラブルになったなど、文章で書くと気持ちがうまく伝わりにくい、と書くことに恐れを抱く保育士が多かった。

保育経験5年目までの保育士が書くことに恐れを抱くのは、保育経験がまだ少ないため、柔軟に、個別的にその場に応じた判断ができずに、保護者とのコミュニケーションがうまく取れないことが原因であろう。研修会において、各自が連絡帳での失敗談をあげて、どこに気をつければ良かったのかを、以下の『連絡帳の書き方の保護者対応への配慮と文章表現の工夫などのポイント』より選択した。

『連絡帳の書き方の保護者対応への配慮と文章表現の工夫などのポイント』

- ① 質問や疑問には必ず答える
- ② プラス思考で書く
- ③ 友だちと比べる書き方はしない
- ④ エピソードを入れるとわかりやすい
- ⑤ 具体的に育児の手だてを書く
- ⑥ 発達を押さえて書く・行動の意味づけを
- ⑦ 親を不安にしない
- ⑧ 母親への心遣いをさりげなく
- ⑨ 笑いはなるべく伝える

研修会であがった事例から3つを紹介する。

* 〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学短期大学部保育科

Department of Early Childhood Care and Education, Tsurumi University of Junior College, 2-1-3 Tsurumi, Tsurumi-Ku, Yokohama 230-8501, Japan.

事例1 勤続3年目の保育士 2歳5ヶ月男児

母親より、ふれあいノート（連絡帳）で友だちを叩いたり、引っ張ったりしていないかを聞かれる。実際に叩いたり引っ張ったりする姿が見られるので、どのような時に見られるのかをエピソードを入れて文で伝えた。その返事は母親から「やはり自分の子どもは他児に被害を与えている。申し訳ない」という内容だった。

文章で書く気持ちが伝わりにくいため、本当に伝えたいことは直接口頭で伝えるべきだと思った。安心して子どもを預けてもらうために、後に口頭で伝え、その時の対応の仕方、子ども同士のやりとりの様子なども話をした。

＜気をつけたかったポイント＞

- ② プラス思考で書く
- ⑥ 発達を押さえて書く・行動の意味づけを
- ⑧ 母親への心遣いをさりげなく（相手の立場になって書くこと）

事例2 勤続4年目の保育士 1歳児クラス男児

ふれあいノートに、S君は水遊びが好きで、2歳児が花に水やりをしているとS君も興味津々で近寄り、水に触って楽しんでいると書いた。これで終わらせておけばよかったものの、生活面のことも書いてしまい、トイレの水も好きで、手を入れて遊ぶこともある。と書いたことに父親から反感を持たれた。

私としては、悪気で書いたつもりではないのに、文章を読んで感じ方、取られ方が人それぞれであることに気づかされた。今後相手の立場に立って考えて書いていきたい。

＜気をつけたかったポイント＞

- ③ 友だちと比べる書き方はしない
- ⑤ 具体的に育児の手だてを書く（保育者の関わりをくわしく）
- ⑥ 発達を押さえて書く・行動の意味づけを

事例3 勤続1年目の保育士 2歳3ヶ月男児

実習の時見ていた子どもの担任になり、私は実習の時トラックやゴミ収集車が好きだったことを覚えていたので、「今日もその話をたくさんしてくれました。まだ好きなんですね。」という書き方をした。「他のお友達は今日〇〇の遊びをしたけれど、Aくんはずっとそのトラックの話をしてくれました。」とまで書いてしまった。

他の子どもたちは〇〇していたのにうちの子はしてないの？と思わせてしまった。

＜気をつけたかったポイント＞

- ③ 友だちと比べる書き方はしない
- ⑥ 発達を押さえて書く・行動の意味づけを

3つの事例から見えてくることは、保護者との間にある、ちょっとした距離感である。その溝をうまく埋めていけるのか、深めてしまうのかは、保育士が何度か事例の様な失敗を繰り返しながら学んでいかねばならないのであろう。その失敗を恐れては保護者の懐に飛び込んでいくことはで

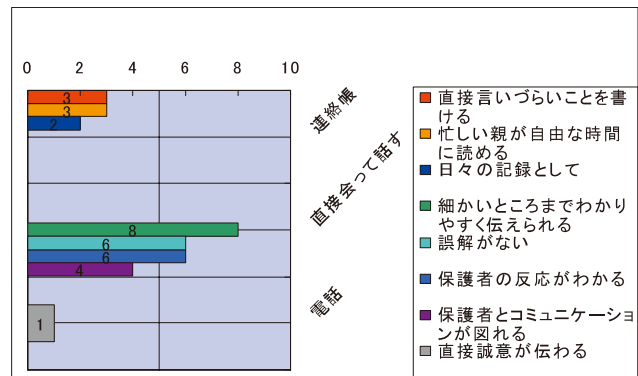
きない。そして、失敗してしまったときに保育士同士の連携や園長も含めて園全体でフォローして支えていくことで、学びが深まり、さらに保護者との絆も深まっていくのである。

園内研修会を行い、事例を持ち寄って話し合うことも、保育の見直しと園での態勢の確認となる良い機会となる。

Ⅳ. 学生の不安（連絡帳）

G 保育専門学校2年58名に対し、保育所に就職した場合『保育者対応の手段としての連絡帳について』意識調査をおこなった。

1. 保護者への連絡手段とその理由について



保育所実習後の調査だったので、学生達は保育所の実態に関して把握している。その上で、やはり「直接会って話す」連絡手段を取り、ミスのないよう慎重に対応したい様子が見て取れた。もう少し、連絡帳の意義を前向きにとらえ、保育であったことを伝える手段としてだけでなく、保護者との絆を深める手段の1つとして捉えて欲しいと考える。

また、電話を連絡手段としてあげた学生が一人であった。緊急時の連絡手段として、電話の扱い方は別の意味での意義がある。直接会って話すことが保育の現場でいかに困難であるかを考えると、タイムリーに保護者に連絡を取らなければならない場合には、電話は便利な連絡方法であるといえるからである。

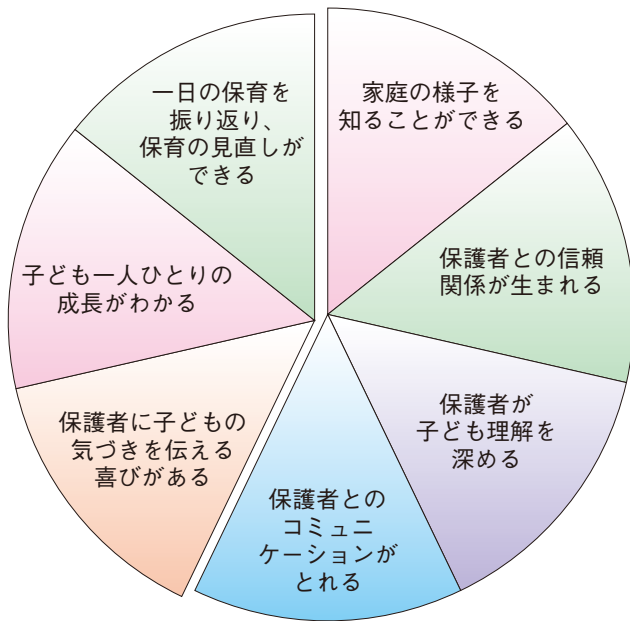
2. 連絡帳を書くことへの期待と不安

さらに、学生が「連絡帳を書く」ことをどのようにイメージしているか、期待と不安の2つの視点から自由に記述してもらった結果が以下の図である。

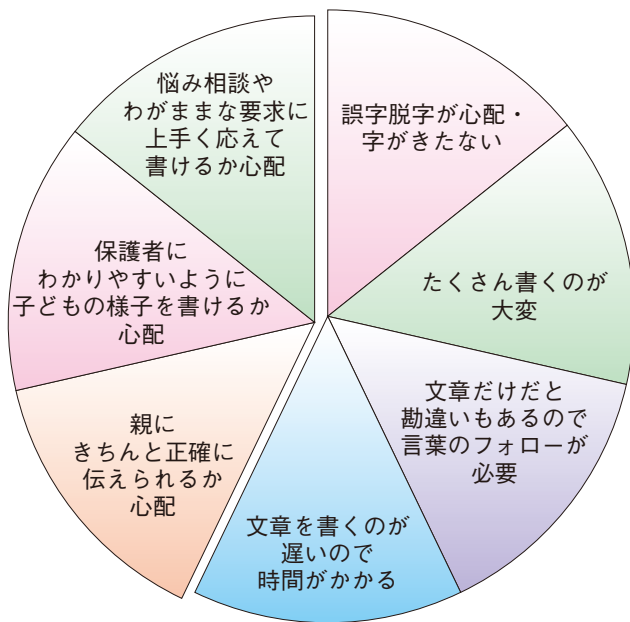
期待する点にあげられた内容から、学生達が連絡帳の意義を保護者対応としてだけでなく、自分の保育にも活かし、役立てることができると理解していることがわかった。

それに反して、不安点の大部分は誤字脱字や文章力のなさから来る不安であった。文章で自分の思いを伝えるという作業をしてきたことがないからこそその不安であろう。この点は、何度か『連絡帳を書く』という作業をしてみると、そのコツを知れば解消される問題である。

連絡帳を書くことへの期待



連絡帳を書くことへの不安



V. 連絡帳の書き方

T 短大2年『国語表現法』G 保育専門学校2年『保育原理Ⅱ』の講義の中で、『連絡帳の書き方』の講義2コマをおこなった。保育所実習を経験した後の授業を行うことで、保育の記録を書くことには抵抗がなかった。

まず、講義の前に課題事例を元に連絡帳を書いてみる。

母親から担任への連絡帳の便事例を提示し、その日の保育記録（園生活）を示した。連絡帳への返事を担任として保育記録を元を書いてみる。（A. 講義前）

次に、『連絡帳の書き方の保護者対応への配慮と文章表現の工夫などのポイント』を、多くの事例を読み解きながら講義を行った。

最後に改めて同じ事例についてお便りを書いた。（B. 講義後）

課題事例

*2歳児 母より（N保育園 ひばり組）

昨日、お誕生会でおばあちゃんもお祝いに来て、いつもより遅くまで起きていました。そのせいか朝から機嫌が悪く、朝ご飯もなかなか食べずに手こずりました。もう少しお兄ちゃんの自覚を持ってもらいたくて、できることは自分でするように言い聞かせているのですが、なかなかうまくいきません。

*園生活（学生の観察記録より）

朝、登園して保護者の足にしがみついているSくんがいた。Sくんはしっかりと目をつむって必死でズボンの裾をつかんでいた。保護者がSくん「毛布入れてくるからちょっとどいて」と手を離すとS君は泣き出してしまった。そこで保育者が「ママにだっこしてもらおうか」とSくんを抱きかかえ保護者のもとに行った。保護者は「S君だっこすると余計泣いちゃうから、ママ行くね。」と行ってしまうと、Sくんは「やあだやあだ!」と、また泣き出してしまった。

そこで保育者が「Sくん昨日お誕生会してもらったの?」と聞き、棚からシートを取り出し、「お絵かきしようか。上手に描けるかな?」とお絵かきコーナーを作った。

Sくんは泣きやみ、しばらく見つめていた。また、保育者にだっこしてもらいたがっていたMちゃんも泣きやみ、お絵かきの方へと目が向き、それから2人とも集中してお絵かきを始めた。

学生レポート事例（担任として記述する）

事例1

A. 講義前

登園時には泣いている姿がありましたが、その後はお絵かきをして、Mちゃんと楽しく遊んでいました。心配だと思いますが、様子を見つつ、一緒に考えていきましょう。

B. 講義後

昨日は2歳のお誕生日でしたね。おめでとうございます。昨日はおばあちゃんも一緒だったそうで、Sくんにとって嬉しい素敵なお誕生日になったことと思います。

今朝は大変でしたね。しかし、それだけ昨日はSくんにとって嬉しいことがいっぱいできなかったのですね。

登園時、泣き出してしまうことがありましたが、「昨日お誕生日会したの?」と言った後、「お絵かきしようか?」と声かけしたところ泣きやみ、集中してお絵かきをしていました。

お誕生日を迎え、お兄さんになったという意識が育っていると感じます。子どもが成長すると同時に問題や悩みも出てくると思いますが、その都度一緒に考えていきましょう。

事例2

A. 講義前

お母さんと別れるときに泣いていましたが、お絵かきに誘うと、すぐに泣きやみお友達と一緒に集中して絵を描いていました。

お家ではお母さんへの甘えが出てしまい、お母さんのしたいことができなくなってしまうと、お母さんも大変でしょう。できるだけこちらも協力していきますので、困ったことがあったらお知らせ下さい。

B. 講義後

朝は時間がなく、忙しいのにお母さんも大変でしたね。Sくんも眠かったので、御飯を食べるという気持ちになかなか出来なかったり、お母さんに甘えたい気持ちが前面に出ていたのかも知れません。

Sくんは「自分です」「自分でしたい」という気持ちの時と「できるけどやって欲しい」というときがある時期です。園では「自分で!」という時にはSくんにやってもらっています。(できないときには少し援助しますが)「やって!」というときは、保育士がやってあげています。また、Sくんが自分でできたときには「上手にできたね」「素敵ね」などと声をかけ、『またやろう』という気持ちになるようにしています。

朝Sくんは、園でお母さんがお仕事に行ってしまうことがわかってはいるのだけれど、悲しくて仕方なく「やだやだ」と泣いていましたが、保育士がお誕生日の話をしたり、お絵かきに誘うと、すぐに気持ちを切り替えていました。お兄さんになってきましたね。

お母さんでも心配なことがありましたら、どんなことでもいいのでお聞かせください。園と一緒に考えていきましょう。

事例3

A. 講義前

お話の通り、今朝はいつもより甘えてしまっていましたね。しかし、昨日からの眠さがSくんにとって少し辛かったのではないのでしょうか。

その後、泣いていたSくんもお誕生日の話をする

と楽しかったことを思い出したのか、少しずつ落ち着いてきました。

お兄ちゃんだからと焦らせるのではなく、ゆっくり自覚していけるようにし、ご家庭と園で一緒に声かけをしていきましょう。

B. 講義後

昨日はSくんお誕生日おめでとうございます! Sくんもついに2歳、これからの成長が楽しみです!

昨日はおばあちゃんがお祝いに来てくださって本当に嬉しかったようです。それでついつい夜遅くまで起きてしまい、その反動が今朝ちょっと出たのでしょうか。

泣いていたSくんも昨日の話をすると楽しかったことを思い出したのか、落ち着けました。…とは言ってもSくんはまだ2歳になったばかりです。甘えることもあります。徐々に自我が芽生えてきます。お兄ちゃんだからと焦らせなくても大丈夫ですよ。

ゆっくり自覚していけるようにし、ご家庭と園と一緒に声かけをしていきましょう。

講義後の記録の変化は著しい。学生から「読みやすい文章になった。読んでホッとする。気楽に書ける。専門家としてのアドバイスを取り入れることが重要だとわかった。」などの意見が出た。

いくつかのポイントを押さえて書くことによって、連絡帳を書くことへの負担感が、期待感に変化している。

保護者が家庭に持ち帰った連絡帳を開き、担任からの便りを楽しみにゆっくりと読みながら時間を過ごしてくれることを頭に描きながら、ゆとりを持って書くことによって、文章力も増してくる。

保育に携わるスタートラインに、大いに自信が持てると言えよう。

Ⅵ. まとめと今後の課題

学生の講義に、連絡帳の書き方を取り入れることの意義は判明したと言える。しかしながら、どの領域において展開していくかはまだ明確ではない。

他大学では『乳児保育』『保育実習』『ゼミ』『日本語コミュニケーション』等、様々な講義の中で工夫して講義が展開されている。それは講義の目的が、幼児理解にあるのか、文章力の向上に重点を置いているのか、その講義のあり方によって決定されているのであろう。

しかし、今回の様に学生に講義の中で、連絡帳の書き方について事例を紐解きながら分析していくことによって、まずは連絡帳を書くことに対する期待感を持たせることができることは大きな意義がある。そこを起点として子ども理解を深め、保護者の気持ちに寄り添う保育をしていけば、自ずと連絡帳が充実してくるのではないかと。

就職後、保育士としての一歩を踏み出す力の一助として、この講義は大いに意味があると言えるのではないだろうか。

参考文献

今井和子著 『保育を変える記録の書き方 評価の仕方』
ひとなる書房 2009

わたなべめぐみ著 『連絡帳の書き方・文例集』
～よい例と悪い例から読み取る～ ひかりのくに 2007

今井和子著『保育に生かす記録の書き方』 ひとなる書房 1999

0.1.2歳児の保育6/7月号

『特集 保護者と保育者を結ぶ連絡帳』 小学館 2008

全国保育団体連合会 ちいさいなかま 7月臨時増刊号

『連絡帳、おたより、こんだん会』 草土文化 2007

